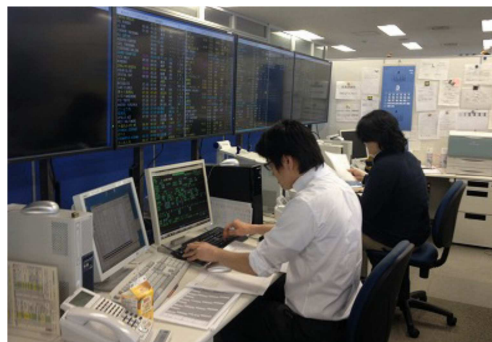


ポートラジオ業務担当者へ安全講話を実施

事務局長 七呂光雄

「東洋信号」（正式名 東洋信号通信社）と言えど何となく聞いたことのある方がおられるだろうが、さてどんな会社かというよく説明できないかもしれない。昔は、灯台近くから望遠鏡で船名を確認している会社だったが、今では情報化社会を代表するように船舶動静に関連した情報を提供している会社で、特に全国の港湾管理者が行っている「ポートラジオ」業務の大半を一手に引き受けて無線通話業務を行っている。大きな行事等で「報道記者席」に席が準備してあったとか、前の社長の本職は「女医」である等、何かとユニークな会社である。

昔観音崎や神島を通過する時に発光信号で船名問合せがあって新米サードオフィサーはビクビクしながら対応したが、この信号が海上保安庁からの問合せで強制力のあるものかと思っていたら、一民間会社である同社からの問合せ発光信号であったという事実を聞き、当時の緊張を考えれば若干怒りさえ感じるという会員もいるようだ。



さて同社との関わりの一つは、私がフェリー会社勤務時代に船長から「入港 S/B で忙しい時にポートラジオが呼んでくる」とのぼやきを聞き、コミュニケーションの大事さを痛感したことからである。陸上側は、ポートラジオから本船への問合せで正確な入港時刻等がわかり、それによって外航船では CIQ、岸壁・荷役の準備等が行われている事を本船では理解していなかった。このような事から同社社員が停泊中にブリッジを見学したり、東京・博多航路 RORO 船で瀬戸内海航行を含む体験乗船を行ってポートラジオと本船のコミュニケーション向上に努めてきた。

全船協に勤務してからも VHF 英会話のパンフレットを作るに当たって同社から絶大な協力を得ることができた。

今回、船舶で事件・事故が発生した時の「司法・行政・民事への対応」について講演の依頼が私にあった。事件等が発生した時に司法的には警察・海上保安庁、行政的には国交省及び付属する運輸安全委員会・海難審判所、民事的には船舶保険、PI 保険等の保険者が関係してくるが、これらの関係者は「餅は餅屋」で自分の専門部署は強いが、他は知らないと言うか無関係という立場になる。しかし船長や船関係者は、広く浅くであっても全体をつかむ必要があり、同社としても「ポートラジオ」として本船と無線業務を行う担当者に基本的知識をつけるために今回の依頼となった。

同社に入社して数年が経ち中堅のポートラジオオペレーターとして現場責任者やチーフを目指す若い男女 15 名が対象で一部商船高専出身者がいたが、大半は一般大学出身で「英語はペラペラだが船についてはよく知らない」というイメージの方々である。船に関係ある話をすると言っても港内に関係する話でないといけないので、90 分位そのような話を中心に行った。



その後、行われた懇親会にも招待され色々船に関する対話ができた。ポートラジオがある地域は強制水先区にある港が殆どであり、水先人ともコミュニケーションが図れたらという声も聞かれた。

このような若い男女とコミュニケーションができれば水先人である本会会員の方にも、若返った気分になるだけでなく、安全運航の確保にも大きく貢献することになるのではないかと、その実現を希望するところです。